



Story この糸の原料
p.2-13 ニューージーランド
ハマナカホビー工場
アメリカができるまで
アメリカのみた風景

Design
Collection
作品
p.14-25

SET-317 ケーブル柄ポンチョ
H144-001 アラン模様のラグランカーディ
H144-002 かぎ針の編み込みヨークカーディ
H144-003 アメリカの地模様ブル
H144-004 3カラーのケーブルマフラー
H144-005 アメリカのハンドウォーマー

Yarn
Information
色見本
p.26

Instructions
作り方
p.29



それは、出会いでした。

ニュージーランドメリノと日本製アクリル。
一見対極にありそうな2つの素材が出会い、
編みやすくて、美しい色の糸
Amerry-アメリーは生まれました。

その出会いの話をここから。



【 ニュージーランド
メリノの原毛 】

刈り取ったままの状態のもの。
まだ脂を含む事から
グリージーウールと呼ばれます。



【 アクリル 】

アクリルトウ(TOW)という特別な綿わたです。
ふっくらした糸にするためのものとしてあり、
きれいな発色、
収縮性を与える役割をします。



そのメリノは、
ニュージーランドにいました。



ニュージーランドメリノの群れ

人口よりも羊の数が多きニュージーランドはまさに羊の国。

ただ、メリノ種はその沢山の羊の中でも5%程しかいないとても貴重な品種です。





上質なメリノを育てるのに
この土地が適している理由。

メリノが育てられているブレナムは年間を通して湿度が低く乾燥しています。その気候が繊細で、白く、均一なメリノを育みます。羊たちは農家の方の手で大切に放牧され、広大な土地を移動しながら山岳地帯のハーブや平地のブドウ畑で草を食み、過ごします。刈り取られた羊毛は、澄んだ雪解け水を利用したカンタベリーの洗い工場で、時間をかけて丁寧に洗われます。自然と人が一体となり、ニュージーランドメリノの品質がつけられています。



ニュージーランド南島北端部のブレナム。国内有数の年間日照時間が優れた土壌を育み、国内最大のワインの生産地としても知られています。



2つの素材は
この場所ではじめて出会います。

ハマナカホビール株式会社
昭和51年、緑豊かな宮崎県新富町
で、手あみ糸の製造工場としてス
タート。ハマナカのロングセラー商
品の多くは、この工場で作られて
います。



ホビール工場で作られた糸は、滋賀県の米原にあるハマナカ繊維株式会社に送られます。そこでふくらみを出すための仕上げ加工を行い、その後玉巻、ラベル巻が行われ、一つひとつ人の手で検品、包装され、出荷されます。

アメリカができるまで。

羊毛から毛糸になるまで、それはとても長い道のりです。
その工程ごとに、人の手・人のまなざしが向けられ、
多くの人の想いを添えて送り出されます。

あなたの手に届いた糸
糸が旅してきた道のり
その風景を想像してみてください。

編みやすく、
着て心地の良い糸を目指して。

手編みのある暮らしに寄り添う、編みやすく、
着心地の良い糸を目指して、
私たちはニュージーランドメリノに会いに行きました。
そこで出会ったのは、愛情たっぷりに育てられた羊たちと、
自分たちが育てている羊に誇りを持っている農家の方々。
この素材を使って、編み物を楽しんでいる人にも、
これからやってみようという人にも
喜んでいただける糸をつくりたい
上質なニュージーランドメリノの風合と
これまでわたしたちが大切にしてきたアクリルの品質、
軽さ、発色の良さ、優れた吸水吸湿性を生かして、
長く使っていただける、より編みやすい糸にできないか、
試行錯誤を繰り返しました。

アメリカは、
軽くて、編みやすく、着て心地よい、きれいな色の糸。
ニュージーランドメリノとの出会いで、
今までにない素敵な糸ができました。
わたしたちはこれから、この糸を大切に育てていきます。



●もっと詳しく私たちの商品作りを知っていただくためにはHPをご覧ください。

<http://www.hamanaka.jp>

羊毛を育てる = ウールグロワー

羊を育て、羊毛の収穫を生業にしている人々をウールグロワーといいますが、家族で経営されていることが多いです。



羊毛を刈り取る = シアラー

メリノ種の場合、年一回、春から初夏の間に毛刈りを行います。刈り取るシアラー、刈り取った毛のかたまりを折りたたむウールローラー、シアラーとウールローラーの作業をサポートするシェットハンド、と呼ばれる人たちが一つのチームを組み、牧場を回ります。1頭あたりの刈り取りに要する時間は2、3分。1頭の羊から約3kgの毛が取れます。



羊毛鑑定士(クラッサー)によって選別・分類され
ブレナムの牧場からカンタベリーの洗い工場へ

羊毛を洗う = スカーリング

スカーリングとはウールに含まれる脂や土砂を取り除く工程です。洗って、適度の水分を残して乾燥させたものを洗い上げ羊毛=スカードウールと呼びます。



年間通して気温差が少ないマレーシアの
日本人が設立・経営する工場へ

羊毛をほぐす = カーディング

洗った羊毛(スカードウール)にもつれないように油をかけて、表面に針を植えた大小多くのローラーを組み合わせた機械に通します。繊維1本1本にほぐし、薄い毛の膜を作り、これを束ねてロープ状にします。ロープ状のものをスライバーと呼びます。



羊毛を揃える = コーミング

スライバーを6~10本組み合わせ(ダブリング)、針の揃えられた櫛でけずり、引き伸ばしながら(ドラフト)細くしていきます。ダブリングとドラフトを繰り返し、繊維を平行に整え、均一な太さのスライバーにしていきます。さらに細かいたくさん櫛を持った機械にかけながら、短い繊維や小さなゴミを取り除き、繊維がきれいに揃った美しいスライバーにします。これを、ウールトップと呼びます。



美しく仕上がったウールトップは
岡山で作る国産アクリルとともに
京都の染色工場へ



染める

原料で染めるものをトップ染め、糸の形状にしてから染めるものを糸染めといいます。(糸染めに比べ、トップ染めは糸へのダメージが少なく、風合いを保つことができる)アメリーはトップ染め。1色の色を作るために、何色もの色を染め分け、ミックスし、深みのある色にしています。(多いものでは5色をミックスしています)

●染めは京都の伏見において、酒造用にも使用される良質な地下水を使います。歴史ある京都の染色技術によって支えられています。



トップ染めしたウール、アクリルが
ひとつの工場(ハマナカホビール)へ
集まります。

糸紡ぎの準備 = 前紡(ぜんぼう)

「ギル」とも呼ばれます。ウールとアクリルを合わせ、ダブリングとドラフト(合わせて、伸ばす)を繰り返します。この段階でできた糸を「粗糸(そし)」と呼びます。



糸を紡ぐ = 精紡(せいぼう)

精紡機という機械で粗糸を糸の太さにまで引き延ばすとともに撚りをかけて糸を紡いでいきます。この段階でできた細い糸が糸を構成する1本で「単糸」と呼ばれます。



複数本の単糸を合わせて撚りかける = 合糸、撚糸
単糸を組み合わせ、単糸と逆方向に撚りかけたら、
糸作りの作業は終了です。



ハマナカ繊維へ

ふくらみを出す = バルキー加工

糸にスチームで熱を加え、ふくらみを出します。アクリルだけが縮むことでウールが浮き、糸にふくら感が生まれます。



玉巻き

玉巻きされ、ラベルを巻き、人の手で1玉ずつ検品し出荷されます。





右上から時計回りに：シアリングの様子。半円状のステージでシアリングを行い、中央の大きな台で大まかに整理する。手前の白衣の男性がクラッサー。／シアリングはまだ肌寒い春先に行われる。／シアラーの毛刈りの様子。／シアリングに使うシェーパーの刃。／一頭からとれる羊毛。この状態をフリースという。／ウールグロワーの子供たち。広大な自然の中で、小さい頃から羊と一緒に。／もうすぐシアリングされるニュージーランドメリたち。／子羊は生後14～16か月経つと、1回目の毛刈りが行われる。



こうして、あなたのもとへ。





Color No.16



Color No.13•17

Color



ウール(ニュージーランドメリノウール)70%、アクリル30% / 24色 / 約110m / 40g玉巻 / 580円(税別)
適正針 棒針6~7号・かぎ針5/0~6/0号 / ゲージ 棒針19~20目 27~28段・かぎ針(長編み)20~21目 9~9.5段



Amerry | New Zealand Wool
• Acrylic fibre 100%
【アメリー】